

美濃陶磁歴史館だより



連続 うちんたあのお宝、なんやね？

コラム 第8回 細野の飛鷹、堀切古墳の出土品

鶴里町細野、中馬街道で知られるこの山間の静かな里には、五つの古墳があることをご存じでしょうか。今回は、それら知られざる細野の古墳のうち、堀切古墳から出土した副葬品を紹介します。

およそ一四〇〇年ほど前、飛鳥時代の細野は、肥田川の最も上流に位置する支流堀切川沿いの小盆地に開かれた小さな里でした。里の広さは、現在の濃南中学校から見渡せる程度の範囲だったと考えられます。五基の古墳のうち、四基（森下古墳、大西一・二号古墳、村上古墳）は里の中央付近にあります。堀切古墳だけがやや離れた里の南端に造られています。尾根の断崖上、里全体を見渡せる位置にあること、小原と柿野へ通じる道の交点を見下ろす交通の要衝に位置することなどから、里の有力者の墓だと考えられます。

堀切古墳では、発掘調査は行われてい

ませんが、地元有志によって盗掘孔の補修が行われた際に副葬品の須恵器が採集されています。須恵器とは、当時使われていた無釉の陶器です。坏蓋と坏身、高坏といった一般的な器形の他、台付碗、脚付短頸壺など少し特殊な器形も見られています。これらも十分に貴重なもののなのですが、実はさらに珍しい特別な須恵器も見つかっています。それが飛鷹を象った鳥鈕蓋です。鳥鈕蓋は、古墳、飛鳥時代に東海地方でのみ使われた特殊な須恵器で、現在までに発見された数は全三十八点、鷹と考えられるものは堀切古墳のものを含めても四点しかありません。これらの鷹は、鷹狩に用いた鷹を模したものと考えられていますので、堀切古墳の主も鷹狩に関係した人物だった可能性があります。



台付碗



高坏



坏身と坏蓋

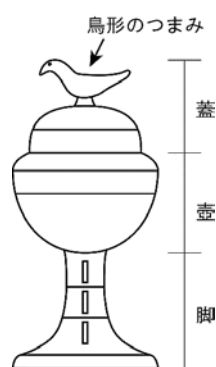
※これらの器にお供え物を入れて墓に副葬しました



脚付短頸壺



※尾羽の一部が欠けています



飛鷹の鳥鈕蓋

※脚付短頸壺の蓋と考えられます

文化財の寄贈報告

鶴里町の文化財を土岐市へ寄贈

鶴里町内で保管されてきた縄文土器や飛鷹の鳥鈕蓋を含む須恵器などの文化財が、土岐市へ寄贈されることとなりました。寄贈された文化財は、土岐市美濃陶磁歴史館内に収蔵され、土岐市および鶴里町の歴史や文化を後世に伝え残すために、企画展や校外学習、学術研究などで活用される予定です。



美濃陶磁歴史館
(☎ ☎1245)